

全共科目「学びをデザインする」  
で学生は何を身につけたか？

**学**びをデザインする。全学共通教育の複合領域にこんな名前の科目があるのをご存じですか？  
なにやら「自分が今、一番興味があることを自分で突きつめることで単位がもらえたらいいな！」という発想をそのまま科目にしたものらしいとの噂を耳にしましたので、いろいろと取材してみました。

「学びをデザインする」には、学ぶことは面白いという体験を大学生活のなるべく早い段階で経験して欲しいとの願いが込められているとのこと。あわせて、新生が「初年次セミナー」で学んだことを、「学びをデザインする」の履修を通じて実践することで、しっかりと身につけることも狙っているようです。まさにアクティブ・ラーナーになるための科目と言えそうですね。

この科目の最大の特徴は、教員が学生に対してテーマを示さない、与えないという点です。履修者が自分でテーマを定め、それにマッチする教員を探し、助言してくれるように交渉して、約束を取り付けてこななければならないのです。そこまでできてからようやく授業がスタートするのです。そして、一学期間かけて探究した内容をレポートにまとめ、毎年開催されている岐阜大学学生レポートコンテストに応募することを目標として推奨しているとのことでした。

今号では、履修者が、この「学びをデザインする」を実際に体験して、何を学び、どのような知識やスキルを身につけたと考えているのかを、インタビューを通して探っていきます。インタビューは平成29年2月6日（月）午後6時からと2月7日（火）午後5時30分からの2回行いました。協力してくれたのは、今学期に「学びをデザインする」を履修して見事にレポートを書きあげた4名の受講生です。次のページに4人の体験から導かれた生の声を記録しています。さっそく読んでみましょう。

なお、アカデミック・コアには、現在この科目の実践報告をまとめたポスターが展示されていますので、興味のある方はぜひご覧になってはいかがでしょうか？



「学びをデザインする」の最終発表の様子

### 「研究」の奥深さ・難しさ

先行研究の論文をじっくりと読んでみると、やっぱりしっかりと考えられているなと思いました。それを知ると、そこまで自分の調べたことに自信が持てないというか。結構、勉強しても過去に研究されていた方々に追いつける自信がなくなってしまうというか。研究者と自分との差を、論文を読んですごく感じてしまいました。自分自身、勉強はするんですけど、彼らのようにはなれないな、奥深いなというふうに感じてしまいました。

[応用生物科学部1年]

### 論文を読むことの大切さ

他の人に「この英語論文、読んで」って言っても、難し過ぎてすぐには読めないと思いますよ。僕は最初に繰り返し時間をかけて読んだので、今はじっくり読むと理解できます。だから、この分野に関してですが、辞書なしで読めるようにまですました。そういう感じで、普段から読んでいないと読めないことが多いので、その辺はやって良かったかなと思います。論文を読むことって大切なんだなと。

[応用生物科学部1年]

### 情報収集・活用能力

この授業を通して、情報収集能力が上がったと思いますし、情報に責任を持つようになりました。最後に発表するので、きちんとしたことを書かないといけないし、しっかり何回も発表内容を確認する必要があるんですよ。信頼のある情報を発信するというか、「著者」として責任を持てるようなものに仕上げられたと思っています。

[応用生物科学部1年]

この授業を通して、論文を作る力を得られたと思いますね。卒業論文に大いに役に立つと思います。具体的には情報収集力、どういうふうに調査するか、そしてそれを批判的に見る力、あと、自分が書く論文に責任を持つこと。それと、文章をまとめる上で、自分の主観じゃなく客観的な研究者の視点から書くなど、多くのことが意識できるようになりました。

[工学部1年]

### 英語力の重要性

この授業を通して、先を見据えることができたというか、将来のために自分がどうするべきかを考えさせられました。例えば、理系で世界の最先端のことを知るには、英語力が必要だなとか実感することができました。

[工学部1年]

### 学習に対する意欲・探究心

「学びをデザインする」では、アドバイザー教員からサポートをしていただきながら、自分のテーマを自由に研究することができるので、何か興味や好きなことがあって、その専門の先生が大学にいらっしゃるなら、この科目は取るべきかなと思います。

[応用生物科学部1年]

この授業では、凄い人たちに会えたという感じがします。英語の論文を読む語学力を持っていたり、一つのテーマについてすごく深いところまで調べている人がいたり、刺激になって良かったです。自分も頑張らなくてはと思いました。だから、勉強するモチベーションが高まったとは思っています。SciFinderなどで英語の論文に触れることが結構新鮮で、この期間やり続けた、やったあ、みたいな優越感・達成感があります。

[工学部1年]

「学びをデザインする」は、とてもすばらしい授業だと思いました。というか、これがむしろ大学じゃないのかなと。学部の授業よりこっちのほうが楽しいです。詰め込み教育じゃないし、何かアカデミックだし、自主性を重んじてくれるところがいいなと思いました。…自分の想像していた大学の授業というのが多分こういうもので、詰め込み教育は嫌いなので、こういうのをぜひ学部でもやってほしいし、全共だけしかないのは何かもったいないなと、僕は思います。

[工学部3年]

ずっと自分の中で研究や、大学生になったら知識を深めたいと思っていたんですけど、1人でやるよりも、アドバイザー教員の先生に教えていただきながら、まとめていくことで、かなり深い内容になったと思っています。なので、1人でやるよりも充実したなと思っています。

[応用生物科学部1年]

# 学生スタッフによる他大学の訪問記録

## ～名古屋大学・金城学院大学～

### 名古屋大学

訪問日：平成28年10月20日（木）

名古屋大学附属図書館のラーニング・コモンズは、図書館内にラーニング・コモンズがあり一体化しています。図書館と連携したイベントを実施したり、学生の学習を手助けする環境として理想的でした。施設の規模が岐阜大学と比べて大きく、グループ学習室のような部屋やフリーのスペースなどがいくつもあり、PCやプリンターなどの設備も豊富で、非常に恵まれた環境でした。学生スタッフは全員が大学院生で、学術的に高度な内容も質問しやすそうな印象でした。また、留学生の学生スタッフがいて、英語、中国語、日本語の3カ国の言語で対応していることがわかりました。名古屋大学の学生スタッフは学習に関する情報を提供しており、学生が自発的に学習する環境作りを進めていることが大変参考になりました。岐阜大学のアカデミック・コアでは、留学生の利用者がまだ少ないですが、学生質問デスクを多言語に対応できるようにすることもゆくゆくは実践したいと思います。名古屋大学でも岐阜大学と同様に、時期によってイベントの参加者が多くなかったり、スタッフからの声掛けが利用者からよく思われないう聞き、イベントの周知の方法をこれから考えていかなければと思いました。



### 金城学院大学

訪問日：平成28年11月25日（金）

女子大学ならではの女性をターゲットとしたイベントやサービスの展開によって、多くの方が利用している状況が印象的でした。ラーニング・コモンズは全体的にとてもきれいで、細やかな気配りがされていました。例えば、ホワイトボードの裏に「傘を忘れていませんか？」と書かれてあったり、PCに「USB忘れるべからず」などの付箋紙が貼ってあったり、プリンターの付近に荷物置きや裏紙入れなどが置いてあったりと、きめ細やかな気配りがされていると感じました。全体的に、利用者にとってかゆいところに手が届くような配慮がされていて感動しました。ラーニング・コモンズのイベントでは、大学内のキャリア支援センター、国際交流センターなど多くの部署と連携して、ほぼ毎日イベントを実施しているので、コモンズに行けば何かやっているというイメージができていたようでした。また、スタッフの方の人脈を生かして、アナウンサーやOGを講師として招いての企画があったり、魅力的なイベントが多くありました。アカデミック・コアでも定期的なイベントを継続しながら、学内の部署と連携したイベントを企画したり、よく利用している学生がイベントを開催できる仕組みを作れたら良いと思いました。金城学院大学では、決定事項が担当の職員の判断で行えるそうで、そのことが幅広くスピード感のある運営につながっていると感じました。岐阜大学とは体制が違いますが、今回の訪問で見聞きした様々な取組みを参考にさせてもらい、今後のコアでの活動に活かすことができればと思いました。



## ＊ アカデミック・コアFD・SD報告

1月20日（金）13時～15時、図書館1階アカデミック・コアにおいて、「学習支援空間としてのラーニングコモンズ」というテーマでアカデミック・コアFD・SDを開催しました。学内外から43名の方に参加していただきました。

まず、本学のアカデミック・コアの立木はる菜さん（コア・スタッフ）によるアカデミック・コアの概要と開設から一年半の軌跡についての報告がありました。次に、千葉大学のアカデミック・リンク・センターの姉川雄大氏（特任助教）を講師としてお迎えして、学習支援に力を入れたラーニング・コモンズとして知られる千葉大学の事例を講演していただきました。続いて、学生スタッフ・佐藤直輝さん（工学部）と川上哲さん（工学部）は、他大学のラーニング・コモンズ視察についての発表を行いました。講演と発表の後に、参加者によるディスカッションを行い、今後のアカデミック・コアについて、単なる自習スペースに留まらないラーニング・コモンズの在り方といった観点から意見交換しました。



千葉大学の事例を話す姉川雄大氏



本学のアカデミック・コアを紹介する立木さん

## ＊ 初年次セミナー「図書館ツアー」

初年次セミナーの図書館ツアーは、今年度からリニューアルされ、図書館やアカデミック・コアの説明に加えて、学生自身が実際に指定された図書の検索と貸し出しをゲーム形式で体験する企画を加えました。グループによって、ほとんどすべての指定図書を借りられたチームと半分以下しか借りられなかったチームなどあり、楽しみながら図書館のシステムに慣れることができたようです。

### <ご報告>

今年度の図書館ツアーの様子を6分ほどの動画にまとめ、平成28年度東海北陸地区国立大学図書館協会ライブラリアンの教育学習支援力コンテストへ出品したところ、最優秀賞を受賞いたしました。



発行 2017年3月17日  
作成 学修支援部門 広報チーム（今福、今井、近藤、清水、高橋(周)、高橋(由)、松原、山口）  
協力 佐藤直輝（工学部4年）、川上哲（工学部3年）  
問い合わせ先 全学共通事務室学修指導係 堀（内線 2167）